

大変身！旧東小が「文化芸術交流センター」へ

昨年から再利用が
始まっていた旧東川
小学校校舎の内部全
面改修工事が9月末
日で完了し、10月15
日「東川町文化芸術
交流センター」とし
て新装オープンしま
す。多様な文化情報
を発信できる多機能
文化拠点施設に大変
身。



正面入り口すぐのカフェテリア。内庭につながる木製デッキも設置して開放感たっぷり(左側にカウンター、厨房)

旧校舎の一部は、一足早く内部全面
改装して、今年1月から宿泊用ベッド
完備の防災宿泊センターとして供用
開始。さらに昨年10月開校した町立日
本語学校校舎として国際教育の拠点機
能が加わり、町が進めるさまざまな独
自文化発信の中核機能を充実させるた
め本格改修を進めてきました。

新たに加わる拠点機能は、○写真の
町・ひがしかわの写真文化情報○家具
の町としての家具デザイン文化○大雪
山国立公園の表玄関として大雪山文化
に係る展示、情報発信○住民の文化活
動。町の新たな文化拠点が出来まし
た。

カフェテリア(地域産品を活用して

飲食メニューを提
供)、チャレンジ
キッチン(トマト
ジュースや味噌、豆
腐づくりなど加工体
験)、ラウンジ(憩
いの場)なども備え
いつでも利用できる
施設を目指していま
す。

10月23日(日)、
オープン記念として、
歌手加藤登紀子さんを迎えて百万本の
バラコンサートを開催予定しています
(関連情報14頁)。同月17日(月)、
18日(火)の2日間、町民施設見学会
も開きます。

マキシマム基準の新米出荷始まる

9月12日、東川米の
新米出荷が始まりまし
た。初日、東川町農協
の農産物検査所(旧北
立支所)には、代表的
な品種のひとつ、「ゆ
めびりか」19トングが一
番出荷で入庫し、いずれも最高ランク
基準を満たす一等米出荷を果たしまし
た。町内では昨年より3日早く、本格
的に稲刈りも始まりました。



が品位・食味分析検
査。水分15%、タン
パク含有量6.5%
と充実度が高く、整
粒歩合も76%の最高
品質基準を満たしま
した。

同農協組合長の15区、樽井功さん
(57)ら4軒。昨年に続いて一番出荷
です。後継者の長男将人さん(28)が
フレコン4本(1本1ト)詰めのコネテ
ナ袋)をばら出荷しました。
北海道米改良協会の農産物検査員

高品質米「マキシマム東川米生産運
動」の2年目。今年は、生産予定量約
22万700俵(1俵60kg)のうち
主要品種「ゆめびりか」を6万4千3
00俵(33.5%)生産予定です。全
量タンパク含有量7.4%以下の一等
米出荷を目指して、「ななつぼし」
「ほしのゆめ」とともに東川米ブラン
ドのブランド力アップを見込んでいま
す。

神饌田で稲刈り拔穂祭

9月8日、東2号北1、三田常男さ
ん(69)の水田で、北海道神宮(伊澤
正裕権宮司)神饌田(しんせんでん)
の稲刈り、拔穂祭(ぬいぼさい)が行
われました。

実りの秋を迎えた田んぼは充実した
黄金色に色づきました。12人の早乙女
(さおとめ)と農協青年部5人の農業

後継者ら6人の介助役が
素足で入り、稲刈り唄
(うた)に合わせて、稲
を刈り取りました。早乙
女の7人は、インターン
シップ研修で役場などに
来ていた武蔵野大学生。
6月に長雨、日照不足



が続いたものの、7月
の高温続きで豊作基調。
穂先もたわわに垂れて
おいしい新米が採れま
した。約20軒で育てた
「ゆめびりか」の新米
10俵(1俵は60kg)
は、新嘗(にいなめ)
祭で北海道神宮に奉納
します。

東川町日台親善協会が発足

東川と台湾との交流
をさらに活発に―と東
川町日台親善協会(藤
田裕三会長)が発足し
ました。9月20日、キ
トウシ高原ホテルで設
立総会、祝賀会を開き
台湾とのさまざまな交
流を進めていくことに
期待が高まりました。



ポーツ交流も進んでい
ます。もつと交流の内
容を進めてほしい。そ
して若い人が相手を理
解しないと交流は進ま
ない。今後とも台湾と
北海道の交流が進みま
すよう、願っています」
と祝福しました。

町内各界から約40人
が出席。台北駐日経済文化代表処の
チェン・ダホン(陳陸宏)札幌分処長
カ・メイユン(柯美雲)夫妻も駆けつ
け、ラトビア、韓国に次ぐ町内3番目
の親善協会の誕生を祝いました。

藤田会長は「北海道は台湾からの訪
問客が一番多い。東川も今後台湾と人
的交流をぜひ進めたい」とあいさつ。
松岡市郎町長は「台湾との交流は、2
008年に野呂千晶さん(旧姓大隅)
が架け橋になった。産業、文化、教育
スポーツなどもっと幅広い分野で交流
が進むのではないかと期待をしま
した。

チェン処長は「道内で20番目の親善
協会が出来ました。台湾と北海道は、
人的交流だけでなく、経済交流、ス

夢先生、くじけず努力する心を伝授

8月31日、9月1日
の両日、東川小学校で
日本サッカー協会(J
FA)主催の心のプロ
ジェクト、夢の教室を
開きました。



「みんなアイデアを出し合って、協力し合えば
うまくできる」と伝授(8月31日、東小体育館)

7年目の今年のユメ
先生は、小林弥生さん
(35)と中野忍さん
(39)。
小林さんは、アテネオリンピック日
本代表のなでしこジャパンのメンバー
でした。中野さんはアテネ、北京、ロ
ンドンのオリンピック3大会カヌー競
技で日本代表選手。2009年W杯で
金、銀、銅メダルを獲得しました。
初日、小林さんは第一、第二、第三

小の5、6年生38人に、
自らの体験を話しました。
小学6年生までチーム
で一番小さかったそうで
す。男子が週3回練習す
るところを週6回練習。
中学、高校のチームでも
「同じ練習をしていたら
試合に出られない」と毎
日壁当ての練習をして周りの選手との
差を縮めた経験を話しました。
2日目、中野さんは東川小の5年生
62人に「大学からカヌーを始め、夢を
見つけた。記録が伸びず落ち込んだ時
もあつたけれど、仲間やコーチを信じ
てあきらめずに練習し、オリンピック
への夢がかなった」と伝えました。

ヒルクライムローラーズスキー大会

9月11日、キトウシ森林公園で第4
回全道ヒルクライムローラーズスキー東
川大会が開かれました。(結果は19頁、
各種大会成績)

小学生から一般まで約70人がエント
リーしました。道内強豪の旭川農業、
旭川大学高、留萌、恵庭南、富良野、
おといねづぶ美術工芸の各高校スキー

部、実業団からはJRス
キー部の選手も。東川ク
ロスカントリースキー少
年団9人もオープン出場
して腕試ししました。
この日は天候もよく、
シーズン入り前の調整大
会として絶好のコンディ



小学生の部スタート(オープン競技)

ション。クラシカル走法
で公園内物産センター前
駐車場から展望閣駐車場
まで標高差165m、上
り2・0kmの急斜面
コースに挑みました。中
学生は1本、高校生以上
は2本の合計タイムで競
いました。